

(資料16) 平成22年度における奨励研究の実施状況及びその評価

1. 平成21年度後期奨励研究評価状況

先見的・萌芽的研究7課題、長期モニタリング1課題の計8課題について、内部評価を実施した。

タイプ	課題代表者	研究課題名	研究期間	年度予算額(千円)	内部評価結果					評価実施分科会	
					5の数	4の数	3の数	2の数	1の数		評価人数
先見的・萌芽的研究	古濱彩子	毒性予測にむけた化学物質と生体分子との分子軌道法による反応モデル構築	1年間	3,000	0	3	4	0	0	7	化学
	大木淳之	海洋起源ハロカーボンの生成メカニズムの解明 -インド洋・南極海での船上実験-	1年間	3,000	0	5	3	0	0	8	化学
	岡本卓	八丈島における外来生物による在来種個体群への影響評価	1年間	1,640	0	5	4	0	0	9	生物
	根上泰子	何が希少鳥類の事故死を増加させるか?	1年間	2,880	0	1	8	0	0	9	生物
	石井裕一	緑潮(グリーンタイド)を引き起こす侵入アオサの実態把握	1年間	3,000	2	3	4	0	0	9	生物
	中嶋信美	マリモの遺伝的多様性と保全に関する研究	3年間	1,280	1	7	1	0	0	9	生物
	中村宣篤	シンデカン接着受容体を利用した第3世代基底膜構造体の創製	2年間	3,000	0	2	3	1	0	6	医学
小計				17,800							
長期モニタリング	中嶋信美	遺伝子組換えセイヨウアブラナのこぼれ落ちおよび拡散に関するモニタリング	5年間(21~26)	5,850	1	8	0	0	0	9	生物
小計				5,850							
合計				23,650							

先見的・萌芽的研究1課題(富永篤「シリケンイモリとウシガエルに感染するカエルツボカビの個体群動態に関する研究」)については、課題代表者が退職したため研究成果の概要について書面で報告された。

2. 平成22年度前期奨励研究評価状況

先見的・萌芽的研究7課題について、内部評価を実施した。

タイプ	課題代表者	研究課題名	研究期間	年度予算額(千円)	内部評価結果					評価実施分科会	
					5の数	4の数	3の数	2の数	1の数		評価人数
先見的・萌芽的研究	河地正伸	海水温上昇に鋭敏に反応するサンゴ共生藻の探索	1年間	3,000	0	4	3	1	0	8	生物
	富岡典子	霞ヶ浦におけるMicrocystisの増殖活性の履歴がbloom形成に及ぼす影響の解明	1年間	2,900	0	5	3	0	0	8	生物
	安立美奈子	熱帯域の土地利用と植生変化が土壌炭素蓄積量に与える影響解明	1年間	2,800	0	1	7	0	0	8	生物
	近藤美由紀	放射性炭素同位体を指標とした土壌有機炭素分解特性の検討-長期有機物未投入耕地を利用した温暖化操作実験-	1年間	3,000	0	3	3	1	0	7	化学
	石森洋行	水溶性有機化合物に対する最終処分場底部遮水工の遮水性能評価	1年間	2,720	0	2	2	0	0	3	応用
	秋吉英治	MIROC3.2ベース化学気候モデルの開発	1年間	3,000	0	2	1	0	0	3	物理
	塩竈秀夫	気候フィードバックの相関関係について	1年間	2,500	1	2	0	0	0	3	物理
合計				19,920							

先見的・萌芽的研究3課題(永野麗子「ヒトES細胞分化系を用いた神経発達に対する新規な残留性有機汚染物質(POPs)の毒性影響に関する研究」、小高真希「マウス肝実質細胞を用いた肝実質組織モデルの作製:モデル作製に最適な基底膜モデルの創製」、佐藤陽美「DNAマイクロアレイを用いた都市大気成分の遺伝子発現プロファイルによる毒性寄与予測手法の開発」)については、課題代表者が退職したため研究成果の概要について書面で報告された。

【分科会】

- 物理系分科会
- 化学系分科会
- 生物系分科会
- 医学系分科会
- 応用工学・人文社会系分科会

【評価】

- 5 大変優れている
- 4 優れている
- 3 普通
- 2 やや劣る
- 1 劣る